

やすらぎ通信

第 21 号 (平成 24 年 8 月 1 日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

葉月(穂張り月)

琵琶湖周航の歌

作詞 小口太郎 原曲 吉田千秋

- 1 われは湖(うみ)の子 さすらいの
旅にしあれば しみじみと
のぼる狭霧(さぎり)や さざなみの
志賀の都よ いざさらば
- 2 松は緑に 砂白き
雄松が里の 乙女子(おとめご)は
赤い椿の 森蔭に
はかない恋に 泣くとかや
- 3 浪のまにまに 漂えば
赤い泊火(とまりび) なつかしみ
行方定めぬ 浪枕
今日は今津か 長浜か
- 4 瑠璃(るり)の花園 珊瑚(さんご)の宮
古い伝えの 竹生島(ちくぶじま)
仏の御手(みて)に いだかれて
ねむれ乙女子 やすらけく
- 5 矢の根は深く 埋(うず)もれて
夏草しげき 堀のあと
古城にひとり 佇(たたず)めば
比良も伊吹(いぶき)も 夢のごと
- 6 (略)

今年の梅雨は、例年よりも早く開け、その分暑い日が多く続いています。このシーズンの万代池の主役は朝からのクマゼミの耳をつんざくような鳴き声。暑い夏を一層暑くしてくれます。しかし、これも日本の夏の風物詩。セミの鳴き声が聞こえる前に早朝のすがすがしい空気を満喫しにウオーキングなどいかがでしょうか。



喫茶室

子供の頃の夏休みの思い出の一つは、麦藁帽をかぶっての蝉取り。当時は、ニイニイゼミやアブラゼミなど翅に色のついた種類が蝉取りの中心。色が透き通ったミンミンゼミやクマゼミにお目にかかれるのはめったになく、ほとんど昆虫図鑑の世界のセミでした。しかし今はどうでしょう。クマゼミでいっぱい。昨年夏にこのコーナーで書きましたように、ミンミンゼミやアブラゼミは郊外に押しやられ都心部の木々はクマゼミに占拠されてしまいました。これも自然環境の異変、私たちへの警告かもしれません。

海のない県で育ったものにとって、海に対する憧れは人一倍大きなものがありました。私の母親が堺の下町で生まれたものですから小学生の夏休みには海のない県の田舎から、海がある「大都会」の堺の祖父母の家に長期間預けられるのが毎年の最大の楽しみでした。また、伯母が堺の大浜に嫁いでいたこともあり、大浜にはよく遊びにいきました。

まだ、小学校に入る前のよちよち歩きの子どもだった頃ですが、浜ではまだ地引網が行われており、それを家族とともに間近で見学していた風景が今でも浮かんできます。網を引き始めると、小さな魚が次々とピョンピョンと網から飛び跳ねてこぼれ出てきました。それを無心に追いかけて捕まえていました。また、伯母の家で海水パンツに着替え、大浜の海水浴場まで歩いていきみんなで浜遊びをしたのも楽しい思い出です。浜で拾った赤や紫の美しい二枚貝の貝殻は私の宝物となりました。

下町の祖母の家の向かいの家は、小さな魚屋さんを営んでいました。魚屋さんには同い年のエミちゃんと二つ上のミキちゃんという姉妹がいましたが、よく一緒に遊びました。その姉妹のお父さんが毎朝、大浜の魚市場に魚を仕入れに行き、自転車で売り歩く前に、家の前でよくトロ箱を並べて売っていました。その中には、生きていた魚やタコが入っていました。そのお父さんは、動いているタコを上手に手で扱っていましたが、私は生きたタコを見たのが初めてで、笑いながら「どうや、触ってみ」とタコを目の前に差し出されたときは、「怖い」と言って逃げ出してしまいました。

また、ひとつ南側の通りでは毎月「5」のつく日に、賑やかな夜店が出ました。夜店は下町の夏の夜のエンターテイメント。金魚すくい、ヨーヨー釣り、スマートボ

ール、お面やおもちや、輪投げや射的、イカ焼き・綿菓子・水あめなど、田舎から出てきた私にとって夜店はまるで別世界の楽しい体験でした。

祖父母の家は堺の中でも旧の堺と呼ばれる土居川の内側にあり、戦前からの長屋住宅が集積したとても庶民的なまちでした。暮らしている人たちは人情が厚く、みんなお互いの家のことは知り尽くしていて「人の家は勝手知った自分の家」と自由に往来していて、その日の晩のおかずまで分かるという緊密な人間関係が形成されていました。

少し先の大きなバス通りに面しては市場があり、おばちゃんたちや祖母たちは毎朝決まった時間になると買い物かごを持って誘いあってその市場に出かけました。祖母に「今日は好きなマグロの刺身を買ってあげるから」と言われ私もよく付いて行きました。当時の市場は本当にすごい活気に満ちていて、中でも魚屋さんが、大きな威勢のいいかけ声をかけて売っている姿を見るのが大好きでした。

私の住んでいた田舎では、まだ冷蔵庫が家庭に普及していなかったもので、生魚は食べることができませんでした。電気冷蔵庫の普及までまだしばらく時間がかかりました。従って、魚と言えば干物や塩蔵品ばかりでした。祖母に市場で買ってもらったマグロの刺身を初めて食べたときには、あまりの美味しさで、魚がこんなにおいしいものかと感激しました。その年の夏休みの宿題の作文では、このマグロの刺身を初めて食べた感動をつづりました。

祖母の家には当時氷で冷やす冷蔵庫がありました。毎朝氷屋さんが頑丈な自転車で大きな氷を荷台に積んで冷蔵庫のある家一軒ずつ配達しに来ました。家の前で自転車を止めて大きな氷切り専用ののこぎりを使い、目印もないのに正確に1貫目ごと切っていました。その時に出る「シャキッ、シャキッ」という音がたまらなく好きでした。のこぎりの切り口から細かい氷の切りくずが周りに飛び散るのを見ただけで涼しくなりました。

祖父は、長屋の一角で戦前から薬局を営んでいました。近くに足袋のマークで有名な大きな会社の本社や工場があり、また超人気テレビ番組のコマーシャルで一躍有名になった菓子会社があったことなどもあり、下町にもかかわらず昔は繁盛していたようでした。しかし、その頃になると、スーパーマーケットなどアメリカの流通システムが日本に導入され出し、商業流通に大きな変化が出だしたことから、下町の小さな祖父の薬局もその影響を受けお客さんの数は減少していっていました。その代わりに、常に近所のおばちゃん、おっちゃんやその子ども達などいろんな人たちが出入りし、いつも近所の溜まり場みたいになっていて賑やかでした。

その中に隣の家のシンちゃんと言う1歳年上の男の子がいて、私の一番の友達になりました。

当時の最大の娯楽は将棋、囲碁、パチンコ、スマートボール、映画などだったと思います。中でも、碁、特に将棋は最も人気の高い娯楽でした。祖母は囲碁が大好きで、いつも家に近所から対戦相手を「調達」しては、毎日午後になると囲碁をさしていました。

また、夕方になるとみんな家の前の道路の端に長椅子を出し、その真ん中に将棋盤を置いて将棋の名(迷)勝負が始まるのです。ステテコ姿、うちわ、渦巻き蚊取り線香が必須の定番でした。

子どもも将棋でよく遊びました。はさみ将棋、ピョコ(ペコ)まわし、将棋の駒くずしが代表的な遊びでした。

また、子どもの夏の夜の楽しみは線香花火。向かいのエミちゃん、隣のシンちゃんと3人で道端で線香花火をよくしました。そして3人で誰が一番最後まで花火を灯すことができるのか競うのです。花火を動かさないで持って、最後にできる赤玉を落とさないことがコツでした。

また、五右衛門風呂で育った私にとって、銭湯は単なる風呂ではなくとても楽しい娯楽場でした。大きなお風呂と温泉のような色と匂いのする小ぶりのお風呂、頭部を押せばお湯の出る蛇口、壁には常夏の南洋の風景のタイル。自然のエコーの効いた浴室、さわやかな石鹸と湯の匂い、全てが何とも言えず好きでした。

銭湯のテレビでは、いつも南海ホークスの試合が放送されていました。プロ野球も巨人の長嶋、王の登場で黄金時代を迎えつつありました。野球少年だった私はテレビでプロ野球を見るのが大好きで、銭湯でも大人たちに混ざって一緒に南海ホークスの試合を見ていました。当時のプロ野球は夏場、ダブルヘッダーが多く、その1試合目の試合を夕方に放送していました。

堺には南海ホークスの本拠地であった中百舌鳥球場があったこともあり、南海ホークスの地元意識から銭湯でもみんな南海ファンでした。当時、アンダースローの剛腕杉浦忠、「赤鬼」と呼ばれたジョー・スタンカなど強いピッチャーがおり、また名将山本(鶴岡)一人監督のもとで、絶えず日本シリーズで巨人と日本一を争うくらいに南海は強いチームでした。

また、当時、大阪の高校野球で強豪といえば浪商で、この浪商出身の逸材が多くパ・リーグに入ったことも、パ・リーグへの関心を高めました。東映フライヤーズに入った山本八郎、張本勲や「怪童」と呼ばれた甲子園の優勝投手尾崎行雄などがその代表です。中でも堺の出身ということもあり、山本八郎選手の人気は銭湯でも抜群でした。山本八郎は気性の激しい浪商出身選手の中で、一段と気性が激しく、1958年(昭和33

年)には南海ホークスとの試合に捕手として出場し、その試合中判定を不服として球審を殴り無期限出場停止処分を受け、さらに翌年の近鉄の試合でも今度はホームベース上のタッチプレーをめぐり捕手を殴って自主出場停止となり、「ケンカ八郎」と呼ばれました。しかし、ファンの人気は抜群で、最初の無期限停止処分の際には、ファンが処分解除の嘆願書の署名運動を行い、その集まった多くの署名をパ・リーグに提出し、処分が解除されたという逸話の持ち主でした。

さて、隣のシンちゃんの家ではおばちゃんが貸本屋を営んでいました。当時は、本を買おうと思えば1冊200円～300円位して高かったこともあり、1泊2日10円くらいで本を貸してくれる貸本屋さんという商売が町の中にはありました。公共図書館が未だ整備されていないなか、貸本屋さんは「下町の図書館」としての役割を果たしていました。また、本を読むというのも娯楽の一つでした。貸本屋で貸していた本は純文学のような固い内容の本ではなく、手塚漫画やテレビで放映され人気になった「赤胴鈴之助」「月光仮面」「チロリン村とクルミの木」などの子ども向け漫画や大人向けの風刺漫画、鞍馬天狗・丹下左膳などの時代劇小説、戦記ものやゴジラやキングコングなどの空想もの小説、「平凡」「明星」といった人気の芸能週刊誌・月刊誌など娯楽性の高いものが中心でした。

シンちゃんのお父さんは大きな病気になったため、おばちゃんが生活費を稼ぐため貸本屋を始めたようでした。このため、シンちゃんは年の離れたお姉ちゃん、お兄ちゃんとともにおばちゃんを支えて暮らしていました。

私も時々祖母に漫画の本を借りてもらったりしていましたが、少しおませだったこともあり、おばちゃんの目のすきについて、大人の雑誌のチラリ読みをしたことがありました。そんなときは、必ずおばちゃんが気づいて「二人でどっかに遊びに行っといで」と私を注意してくれました。

ところで、この長屋街にも一軒だけとても瀟洒な古い洋館風の家が建っていました。そこにはカガミ医院という看板が上がっていました。そこには、女のお医者さんが看護婦さんと二人で住んでいました。このカガミ先生は地域のみんなに慕われていて、祖母も、カガミ先生に対しては尊敬を込めて敬語を使って話をしていました。

私にとっては、洋館風の建物がとても珍しく、そこに住んでいるカガミ先生とはどういう人なのかとても興味がありましたが、一方では近寄りがたく、時々前を通るときにそっと玄関から奥を覗きこんでいました。しかし、ある年の夏、そんなことをしなくても堂々と入ることができるようになりました。熱を出してしまったからです。こうして念願かなって、その洋館風の建物の中に入ることができました。カガミ先生は予想通りとても上品な優しい先生でした。しかし、このような先生がこの庶民的な

町になぜ暮らしているのかとても不思議な気がしました。

お医者さんと言いますと、当時私の住んでいた田舎の隣町に「コダカ先生」という男のお医者さんが昔から開業されておりました。私がもの心ついたときには、既に初老の域に入っていたらっしゃいましたが、このコダカ先生には大変お世話になりました。とても優しく温厚な先生で、いつでもどこにでも往診して下さるので地域の皆さんから慕われ頼りにされておりました。先生の見慣れた往診スタイル、黒の診察鞆を携え自転車を漕ぐちょび髭を生やした先生を見るとみんな「先生、今日もご苦労はんだんな」と親しみを込め声をかけておりました。

私は小さいときはとても体が弱く、しょっちゅう熱を出したり、お腹を壊したりしておりました。そのたびにコダカ先生に往診に来ていただきました。一度だけ、家で作っているイチゴを青い時から食べて疫痢にかかったことがありました。このときのことはいささか覚えていませんが、やはりコダカ先生に治療をしていただいたようです。コダカ先生は往診に来て、いつもご自分の手のひらをお腹に当てて触診をされるのですが、その手はいつもやさしさのこもった手で、未だにその感触は覚えています。

コダカ先生はとてもその後長生きをされ、90 才を超えても往診されておりました。私も成長するにつれ体が丈夫になり、あまりコダカ先生にお世話になることもなくなりましたが、高校生の時、日本脳炎の予防注射を先生の医院でしていただきました。また、大学の1年のとき田舎の祖母が80歳で亡くなったときには、最後の看取りにやはり先生は自転車に乗って来てくださいました。その時すでに先生は90才を超えておられたと思います。

堺の下町では昼間、はったい粉屋さん、わらびもち屋さん、紙芝居屋さんが自転車でやってきました。また、関東炊き(カントダキ)屋さんもやってきました。カランカランと鐘を鳴らしながらリヤカーに釜を乗せて熱々の関東炊きを売りにくるのです。今のおでんと違ってみんな竹串が刺してありました。だから手で持って食べることができます。これをおやつ代わりに食べるのです。ごぼう天、ジャガイモ、こんにゃくなどが1本20円位で売られておりました。何日も煮ていたのかとても味がよく味がしみ込んでおりました。

また、当時は日本映画が一番輝いていた時代でした。映画館はとてもたくさんあり、大阪市内にはシネラマ映画館もできて話題になりました。もちろん、祖母の家の近くにも5～6軒の映画館がありました。そういうあるとき、祖母から、帰りにソフトクリームを食べさせてあげるから映画に行かないかと誘われました。映画は片岡知恵蔵の「国定忠治」。当時は時代劇全盛時代。映画館は田舎の街にも中心街にいけば二軒もありました。私は、時代劇(チャンバラ)が大好きで、ちょうど中村錦之介(後に

「萬屋錦之介」がデビューした頃の頃で、田舎でも「一心太助」などの錦之介映画をよく見に連れて行ってもらいました。だから、この時も喜んでついて行きました。それに、なによりもソフトクリームというおまけまでついていました。ソフトクリームは、当時はレストランや喫茶店でないと食べることのできない高級デザートだったので。

さらに、堺には立派な水族館がありました。石造りの大きな水族館でした。水族館の前には大きな噴水があり、その中に大きな白い像が立っていました。水族館の中にはいろんな魚が展示してありましたが、丸い大きな水槽の中でアカウミガメとアオウミガメがゆったりと動いていたことと、立面水槽では、マントエイが大きなマントを広げて悠然と泳いでいたのが印象的でした。

しかし、この堺の立派な水族館は、その数年後、1961年(昭和36年)9月に半世紀以上の歴史に幕を下ろすことになりました。

1961年は、日本が戦争で敗れて丁度丸15年、焦土と化した日本も、朝鮮戦争で戦前の工業水準を回復した日本経済が1960年代に入るとともに新たな発展期を迎えていたからです。

前年の1960年は、日米安保条約の改定をめぐり、国論が二分され、国会に突入した全学連のデモに加わっていた東京大学の女子学生樺美智子さんがその渦中で死亡するなど、社会全体が激しい反対運動の中で騒然とした年になりました。安保条約はようやく改定条約が批准可決されましたが、改定の任に当たった岸信介首相は退陣し、代わって池田勇人氏が首相に選ばれました。元満州国の高級官僚、東条英樹内閣で商工大臣を務め、戦犯指定を受けたこわもての岸首相に代わって首相になった財務官僚出身の池田氏は、激しく国論を二分した政治問題から、国民の関心を経済問題に転換する政策運営を行い、積極的な経済政策を推し進めました。「国民所得倍増計画」です。任期中に国民所得を倍にするということを内閣の公約に掲げて経済政策を進めました。池田氏の「私は、うそは申しません」というセリフが流行語になりました。

この池田首相の所得倍増計画を中心とする経済中心政策は、大成功し、内需や輸出の拡大を通じ日本経済はかつて経験したことのない長期間にわたる持続的な高度経済成長を達成することになったのです。

堺の大浜も含む高石、泉大津にまたがる海岸地域も、この大きな転換に乗るように変貌を遂げていきます。堺臨界工業地帯と、泉北臨海工業地帯の造成です。日本経済の発展に伴う産業構造も高度化により、従来の繊維を中心にした軽工業から鉄鋼、化学、石油という重厚長大産業への構造転換が始まりました。この経済発展の方向にいち早く目をつけ、大阪経済の新たな浮揚に結び付けようと考えたのが当時の赤間文三大阪府知事らでした。この事業は資金調達面での大変な困難が伴いましたが、赤間

知事らの執念と努力により政府を飛び越え、一地方自治体としては前例のない西ドイツでの外債（マルク債）の発行にこぎつけ、埋め立て事業の資金調達に成功し、堺・泉北の開発が幕を切って落とされました。こうした、大きな社会の転換点のなかで、大浜や浜寺の海水浴場や堺の水族館は工業地帯の造成のため、消えてなくなりました。後には、浜寺公園の中にその代替施設として大きなプールができ、大浜公園には、サル山と相撲場などが残されました。

堺・泉北臨海工業地帯は、臨界コンビナートとして日本を代表するコンビナートに発展していきますが、それに伴い 1970 年頃になりますと、厳しい公害の元凶として指弾される時代を迎え冬の時代に突入します。この時代、堺・泉北臨海工業地帯の経済効果よりも、堺泉北の公害により払わなければならない社会コストがはるかに上回るという「工業地帯無用論」が唱えられました。しかし、その後の公害対策や環境対策の進展により、公害問題は克服され、今や地位の低下が著しい大阪経済にあって、府域全体の工業出荷額の 4 分 1 を担い続ける貴重な存在になっています。

堺・泉北の埋め立て事業は大阪経済の発展には大きな貢献をし、今日に至っています。しかし、あの私が遊んだ大浜の風景は、今は懐かしい思い出になってしまいました。あの美しい砂浜と海の風景が大都市の一角に残されていたなら、また違った都市の発展の仕方があったのではないかとも思ってしまいます。それと同時に、私が過ごした下町の中にあり、また日本国中にあった同じような地域における人と人のつながり、絆というものも、1960 年代の高度経済成長のスタートとともに、以降徐々に失われていきました。高度成長期以降の私たちの社会は、地縁や血縁をベースにした人間関係を古い封建的な人間関係として捨て去り、西欧型の個人の自立を重視した社会を望ましい社会像として描き、転換を図ってきました。それは、住宅の住まい方にも端的に現れました。それまでの「大家族同居」型から若い夫婦と子どもを単位にした公団住宅型への転換が民間住宅でも 1960 年代から本格的に始まりました。しかし、その流れが行き着いた先はどのようになったのでしょうか。西欧型の自立した「個」からなる社会とは程遠い、人と人との関係が断絶した「孤」が蔓延する社会になってしまったのではないのでしょうか。

今月は、原体験をもとに「私の“三丁目の夕日”」を書かせていただきましたが、単にあの時代はよかったというノスタルジアではなく、あの時代まで日本人が持っていた「縦のつながり」社会ではない「横のつながり」社会のもっている意味を再確認し、この社会のあり様を社会の規範や哲学を含め再構築すべき地点に今私たちは立っていると思いますが、皆さん方いかがでしょうか。

堺水族館…1903 年（明治 36 年）に第 5 回内国勸業博覧会が、天王寺を第一会場、堺大浜

遊園地内を第2会場として開かれたのに合わせて、水族館が建設されました。(天王寺の会場跡地には初代通天閣が建設されました。)この水族館は、博覧会後堺市に払い下げられ市立の水族館になりましたが、その後経営難のため、阪堺電気軌道株式会社への経営委託することなどで運営されました。しかし、堺臨界工業地帯の埋め立て事業の実施にともない1961年(昭和36年)に閉鎖されました。また、水族館の入り口には高さ4.5m(1丈5尺)の噴水塔の上に高さ2.58m(8尺5寸)の龍女の像を立てた「乙女の噴水」がつけられました。なお、この像は現在大浜公園の近く、堺旧港整備事業で旧港地区内の緑地に再建されています。

(お断り) 本編に登場した方々の名前は仮称にさせていただきます。



患者の皆様方に必要なときに適切な医療をお受けいただくためには、地域の開業医の先生方等と当センターが緊密に連携し、それぞれの特性に応じた役割分担を行い、地域全体として患者さんを見守りサポートしていくことが、とても大切なことだと当センターでは考えております。

このため、普段から地域の先生方と個別の疾患テーマごとに合同で研修会を行ったり、地域の先生方からのご依頼にもとづく高度医療機器を用いた検査や、共同診療など様々な連携を行っております。また、患者さんの症状が重篤であったり早急な急性期治療を行わなければならない場合の地域の先生方からご紹介いただいた患者さんの診療や、急性期を脱した患者さんなど当センターでの治療が終了した患者さんのフォローアップや日常的な治療などは、地域の先生方に患者さんを逆紹介させていただくなど緊密な連携のもとで、地域で総合的に患者さんを見守り治療を行う体制を取っております。

このため、こうした緊密な連携関係を日常的に維持するために、当センターでは、開業医の先生に登録いただく「登録医制度」を導入しております。

患者の皆さんには、日常の健康管理や病気の治療をしていただける「かかりつけ医」を持たれることを私たちはお勧めしておりますが、そのために、このたび当センターの正面玄関に入ってすぐ左側に、登録医の先生方をご紹介できるよう「登録医ご紹介コーナー」を設けましたので、是非、お住まい近くのかかりつけ医をお探しになる際の参考にしていただければ幸いです。(地域医療連携室)

NEWS

【(継)前立腺がんの手術

—先月から内視鏡手術支援ロボットによる手術を本格実施！】

泌尿器科主任部長 山口誓司

泌尿器科領域における手術の多くは腹腔鏡手術となってきました。副腎から始まり腎摘除術、腎がんの根治手術に適応され、現在は前立腺がんの手術にも多くの施設で腹腔鏡手術が主流となってきました。

当科では2009年から腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、2010年に施設認定を取得し2011年は69例の前立腺がん手術のうち36例に腹腔鏡手術を施行しました。腹腔鏡下手術は内視鏡で観察しながら行う手術の事で、お腹に大きな創を作ることなく、小さな穴を5~6箇所開けて直径5~12mmのトロカーと呼ばれる筒状の器具を通して行う、体に負担が少なくてすむ手術です。内視鏡で観察しながら行いますので、肉眼よりは拡大視野で行うためにより、細かい手術が可能となっています。尿失禁に係する尿道括約筋や勃起神経の温存が可能です。開腹手術に比較して出血量も極めて少なくなっています。傷の治りが早く術後の痛みが少ないため術後回復が早いことが特徴で、入院期間は10日から2週間ぐらいの期間です。

今年の診療報酬改定に伴い医療用ロボットを使った手術が保険で行うことが可能となりました。今後はこのロボット手術が増えていくものと予想されています。

そこで当センターでは、このたび手術支援ロボット「da Vinci S」(ダ・ヴィンチ)を導入し、前立腺がんの手術に活用することになりました。ダ・ヴィンチは米国Intuitive Surgical社が開発した内視鏡手術用の医療ロボットです。2000年に米国FDAで承認され、日本では2009年販売が承認されました。2011年12月現在、全世界で2132台納入されており、そのうち米国は1548台です。アジアでは韓国で早期に導入され、この領域ではアジアのリーダーとなっています。日本ではなかなか普及するに至りませんでした。最近少しずつ導入されつつあり、2011年末現在で40台が全国で導入されています。米国では年間10万件の前立腺がんの手術のうち実に8割がダ・ヴィンチを使った手術となっています。

このダ・ヴィンチによる手術の特徴は術者が拡大された3次元の画像を見ながら手術操作を行うところにあります。従来の腹腔鏡手術では3次元画像での手術は行われていませんでした。また、手術操作鉗子の先は手首や指の関節のようになめらかに動き、手以上の可動域を持っており、より細かな手術操作が可能となり、狭い骨盤の底で尿道と膀胱をつなぎ合わせる前立腺がんの手術には最適の医療技術です。前立腺はクルミ大の大きさで周囲は膀胱、直腸があり、周囲には血管や勃起に係する神経や尿道括約筋が存在します。拡大された3次元の画像を見ながら、術者の手の動きは縮小され、手ぶれも補正されて行われるため正確な手術が施行可能です。特に尿道と膀胱の吻合はダ・ヴィンチならではの有用性が生かされます。したがって、がんの根治性の向上はもとより、勃起機能不全や尿失禁などの合併症の軽減が期待されており、今後急速に普及されるものと思われます。

【(継) “総合内科”を開設のご案内—総合内科—】

総合内科は、感染症を主とした内科系の境界領域の診療、多重合併症をもつ患者さんの診療、診断未確定で担当診療科が定まっていない患者さんの診断と初期診療を行っています。

また、初期研修医・後期研修医の総合的診療能力を培うための医学教育にも貢献し、当センターおよび地域の医療の機能向上にも貢献していきたいと思っております。

お問合せ 総合内科診療主任 大場雄一郎

【(継)前立腺がん、頭頸部がんのIMRT治療を行っております —放射線治療科—】

IMRT(強度変調放射線治療)は、周辺の正常組織の線量を減らし合併症のリスク低減に画期的な方法です。昨年11月から前立腺癌に対するIMRTの保険診療を開始しましたが、現在、適応拡大して頭頸部癌のIMRTも行っております。頭頸部癌では脳・脊髄・唾液腺など重要臓器が複雑に関係し、通常の放射線治療では唾液腺障害が必発です。さらに腫瘍に対しても十分な線量を投与することが難しいケースもあります。IMRTの技術を用いればこれらが解決し、腫瘍制御率向上だけでなく患者さんのQOL維持にも役立ちます。

主な対象疾患は咽頭癌です。適応など詳細については放射線治療科もしくは耳鼻咽喉・頭頸部外科までお問い合わせ下さい。

【(継)PET-CT 地域の医療機関からの検査受付しております—画像診断科】

PET-CT検査につきましては、先月からは地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けています。お問い合わせは画像診断科 RI(核医学)・PET 検査室まで。

(当センターのPET-CTは検診依頼には対応しておりませんのでよろしくお願いします。)

【(継) 「医療相談」コールセンターのご利用を一地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は 06-6692-2800 (専用電話回線)

新たに開設! 06-6692-2801 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日

午前9時～午後5時

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【(継) 診察予約変更センター

11 診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！】

当センターでは、下記の 11 診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。

なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継)入院治療費の概算を予めお知らせしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

今月の催し

【(新) 千の音色でつなぐ絆 一音登夢コンサート】

一東北陸前高田の流木（ガレキ）で作られたバイオリンを

千人のヴァイオリニストがリレー演奏し魂をつないでいくプロジェクト

このプロジェクトは、東日本大震災の被災者支援のために、被災地で生まれ育った木材でヴァイオリンを製作し、賛同する仲間たちがその楽器を演奏し、被災された方を励まして、亡くなられた方に鎮魂の祈りをささげ、この震災で起きたことを風化させずに復興が終わるまで全国の人々が支援し続けることを目的にしています。

音登夢は、この活動に賛同し絆の環を広げたいと願って活動をしています。

日 時 8月10日(金) 午後2時～

出 演 音登夢と門下生、その仲間たち

音登夢主宰 木村正雄（チェロ奏者） 木村直子（バイオリン奏者）

場 所 本館3階講堂

【(新) 今月のすこやかセミナー】

「肺がんに負けない」

日 時 8月24日(金) 午前11時～12時

場 所 3階保健教室

講 師 医務局長 谷尾 吉郎

(参加無料)

【(新) 第20回相愛大学連携コンサート ～ピアノ・連弾～】

～ 美しいピアノの音色に秋の訪れを探そう ～

日 時 8月28日(火) 午後2時～

場 所 3階講堂

出 演 外川 絵弥明

橋本 幸枝

演奏曲目 モーツァルト ソナタ Kv.381 dur

クライスラー 愛の喜び

プーランク ソナタ

日本の歌メドレー (荒城の月、ふるさと、夏の思い出、この道)

ブラームスハンガリー舞曲 7, 4, 5番

(参加無料)

【(新) 大好評!!】

相愛大学連携・外来糖尿病教室 ～知って得する!糖尿病の付き合いかた～】

(8月はお休みです。)

(次 回)

日 時 9月19日(水) 午後2時～3時30分

場 所 1階アトリウム

内 容 「インクレチンて何?—新しい糖尿病のお薬の話し—」

糖尿病代謝内科医師 藤田 洋平

「ブドウ糖の大冒険」

糖尿病看護認定看護師 後藤 博美

「食欲の秋に向けて」

管理栄養士 笠井 香織

【(新)免疫リウマチ科 藤原主任部長の外部講演会で話します！】

— テーマ：「膠原病の基礎知識と最新の治療」 —

日 時 10月28日(日) 10:15~12:00
講 師 免疫リウマチ科主任部長 藤原弘士
主 催 NPO法人大阪難病連
場 所 エル・大阪

ご参加を希望されます方はNPO法人大阪難病連(ホームページ
<http://www15.ocn.ne.jp/~nanren72/index.html>)にお問い合わせ下さい:

電話 06-6933-1616、または メール nanren@vesta.ocn.ne.jp
(免疫リウマチ科 藤原 弘士)

【(継) 開催！前田藤四郎「昭和モダニズム」・元永定正「色彩の魔術」版画二人展】

前田藤四郎(1904-1990)は、兵庫県生まれで神戸高商(現神戸大学)を卒業した後松坂屋宣伝部に入社。商業美術に携わる一方独習で版画の世界に。主に関西を中心に、木版をベースに、リノリウムやシルクスクリーンをも使用し、油彩絵具で刷り上げる独特の明快な作風を確立。昭和の大阪のモダニズムを代表する版画家となった。

元永定正(1922-2011)は、三重県生まれで、55年に関西を拠点とする前衛美術集団「具体美術協会」に参加し、吉原治郎に師事。偶然性を取り入れた抽象的なオブジェや平面作品を制作。おおらかでユーモアあふれる作風を確立する一方、70年代からは版画制作にも意欲的に取り組み、自作へのネーミングには抜群のセンスを発揮。

今回の企画展では、関西を代表した二人の巨匠の作品を同時展示しております。

是非、ご来場ください。なお、本企画展は大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力で開催しております。

日 時 6月25日(月)～ 9月21日(金) (午前9時～午後5時30分)
場 所 本館2階現代美術空間一病院ギャラリー

【(継) 開催！芦屋市美術協会会員—小林芳夫写真展～邂逅の世界から～】

当センターの前身である旧大阪府立病院で心臓疾患の専門医(1988年、心疾患専門診療科部長で退職)として勤務していた小林芳夫氏が、退職後に本格的に写真家として活動を開始。今日まで日本国内のみならず、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界各地で撮影を行い、10年ごとに3冊の写真集「邂逅」「邂逅Ⅱ」「邂逅Ⅲ」を出版(1作目は自費出版)。

多くの作品を大阪大学などに寄贈されるなか、氏の手元に残された秀作16点の写真展を開催しています。

日 時 6月25日(月)～12月21日(金) (午前9時～午後5時30分)
場 所 本館2階現代美術空間—病院ギャラリー

【(予告) 府民公開講座 —みんなで学ぼう高齢者の大腸がん—】

もし大腸がん診断されたら? 「思い切って手術」「放射線治療が楽でいい」「抗がん剤で様子を見よう」とか言われるけど、どれがいいのでしょうか。また、「高齢者のがんは進行が遅い」って聞いたけど本当でしょうか。大腸がんの知識と適切な治療法について一緒に考えましょう。

日 時 9月8日(土) 午後1時30分～3時
場 所 本館3階講堂
講 師 外科 副部長 玉川 浩司
(先着 100名、入場無料)

【(予告) 骨髄バンク支援・「愛のかけはし」シャンソンコンサート】

—骨髄バンクの支援を行っているプロのシャンソン歌手&

ケルティックギター奏者による愛のコンサートです—

日 時 9月10日(月) 午後2時～3時
場 所 本館3階講堂
出 演 (ケルティックハーブ)

柳井 康子 「あかとんぼ」「里の秋」ほか
(シャンソン)

川島 ひとみ 「コメディアン」「サン・トワ・マミー」ほか

渕上 秀樹 「ろくでなし」「セ・シ・ボン」ほか

てらだ けいこ 「からたちの花」「夢路より」ほか

まなべ みきお 「公園の手品師」「風船売り」ほか

(入場無料)

【(予告) 毎度おなじみ!・「南京たますだれ一座」によるたますだれと皿回し】

—お馴染みの熟年女性グループによる楽しいイベントです。

あなたも玉すだれ、皿回しに挑戦してみませんか!—

日 時 9月20日(木) 午後2時～
場 所 本館1階アトリウム、談話室

【(予告) 第9回万代・夢寄席 平成の爆笑王！桂かい枝 落語会】

日 時 9月24日(月) 午後2時～

場 所 本館3階講堂

主 催 万代やすらぎ亭

【(予告) 三者連携シンポジウム「生と死を、今考えるⅢ

— “疫を免じる”・がんと免疫の力—】

I 基調講演

「ここまで来たがん医療 —WT 1 がん免疫療法の最新の成果」

大阪大学大学院医学系研究科教授 杉山 治夫

関連講演

「がん診療における免疫力」

当センター医務局長 谷尾 吉郎

II パネルディスカッション「免疫と健康—笑いは健康の原点」

① 落語 落語家 笑福亭 松喬

② ディスカッション

コーディネーター 釈 徹宗 (相愛大学人文学部教授)

パネラー 笑福亭 松喬 (落語家)

浅田 章 (相愛大学人間発達学部教授)

青木 元邦 (森ノ宮医療大学保健医療学部教授)

山田 義美 (当センターがん患者会「ひまわり」代表)

谷尾 吉郎 (当センター医務局長)

日 時 10月20日(土) 午後1時～

申込み 9月10日(月)～10月15日(月) 先着200名

(詳細は来月号で。)

【(予告) 相愛大学連携事業・第3回糖尿病予防セミナー】

日本では、糖尿病や糖尿病の疑いのある方が増えています。その改善には食事などの生活習慣の改善が欠かせません。そこで当センターと相愛大学が連携・協働し、患者さん以外の方も対象に、本セミナーを開催し、お一人お一人が食事など生活習慣の問題を考え、改善するきっかけを提供させていただきます。

なお、本セミナーは『世界糖尿病デー』(11月14日)の行事の一環として開催します。

日 時 11月10日(土) 午後1時30分～4時 先着200名

申込み 10月1日(月)～11月5日(月) 先着200名

内容 テーマ「糖尿病予防のキーワードは**野菜!**」

糖尿病予防で最近、特に注目を浴びているのが野菜!

1日に必要な野菜は350g。しっかり摂れていますか?

聞いて、見て、体験して考えてみませんか?

- ① ミニ講座
- ② 相愛大学学生と教員が考えた体験学習コーナー
 - ・食育SATシステムによる食事診断
 - ・体脂肪、筋肉量測定
 - ・血糖値測定
 - ・野菜コーナー、クイズラリーなど

Topics

【(継) 緑がまばゆい7月! やすらぎのプロムナード—北側通路周辺—】

今月のプロムナードは、夏真っ盛り、朝の新鮮な空気、木の葉の香り、そしてクマゼミの合唱。夏らしい朝の風景ですね。過ぎ行く今年の夏をプロムナードの木陰で涼を取りながら楽しんでみられたらいかがでしょうか。

今月のNICさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社NICの窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 画像診断科受付担当 田辺さんの巻】

「画像診断科クラークは、レントゲン、CT、MR など検査に来られた患者さん方の受付予約のご説明をさせていただいております。

定期的に検査を受けに来られる患者さんの中には、顔見知りになってお声をかけていただくことがあります。しかし、はじめて病院に来られて、突然いろんな検査を受けなければならなくなりパニックになっておられる患者さん、不安で涙ぐんでいらっしゃる患者さんも私たちのところに来られます。

そういった患者さんに、どういようにご説明しご理解していただくか、また患者さんのご不安を少しでも取り除くにはどのように寄り添っていけばよいのか、毎日が勉強の連続です。

そんな日々の中、いつものように検査のご説明をさせていただいているとき、80代の女性の患者さんからこんなお言葉がありました。『今生きている命をかってに止

める事はいけないのよ。どんどん医療が進歩して先進医療を受ける事も出来るのですから・・・検査をうけて一日でも長く生き続けることが大切なのよ』と明るくおっしゃっていました。私達クラークも、この患者さんのお言葉のなかにある命の大切さ、元気、勇気のバトンを笑顔とともにつないでいけるよう、日々努力をしていきたいと思っております。

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。